

日本ニューノズル株式会社

手のひらサイズのスマートフォンには、数百~千点以上に及ぶ部品が使用されているという。その全ての部品が設計通りの精緻さで供給されるからこそ、スマートフォンは最先端の技術を比較的安価に提供でき、世界中の人々が利用できる環境が実現した。静岡市清水区にも、こうした精緻な部品づくりの最前線を支える企業がある。日本ニューノズルの仕事を知れば、身の回りにあるさまざまな製品の見方が、少し違って来るはずだ。望月飛辰社長に話を聞いた。

Company File カンパニーファイル

【精度】

大量生産の最前線に 高精度「ノズル」で寄与 未来志向の経営に取り組み

製品精度の肝をにぎる「ノズル」
—最初にノズルについて教えて
ください。

望月飛辰社長(以下望月) 先に「射出成形」がどんなものか分かる理解が早いでしょうね。例えばプラスチックを加熱してドロドロにし、金型の穴の中に圧力をかけて注入する。これを固めてプラスチックの部品が出来上



ノズル

がる。これが「射出成形」の手順です。この時に、加熱したプラスチックを注入する先端にあたる部分が「ノズル」なのです。当社はこれを製造しています。

射出成形機を使って生産される製品は、携帯電話のモニター部分(導光板)や、コネクタ部分、CD・DVD・ブルーレイディスク、そのデータを読み取るピックアップレンズなど。いずれも精度の高さが絶対条件となる部品で、ここに特殊な加工技術でお応えしているのが当社、ということになります。

「熱処理」含めた製造で精度向上
—その特殊な技術はどの点で発揮されているのですか？

望月 実はこの精度を出すことにおいて重要なのは「熱処理」なんです。素材を高速で切ったり削ったりすることで、歪みや変形の元になる熱が生じます。「熱処理」専門の業者さんにもいろいろありますが、当社では「熱処理」ま

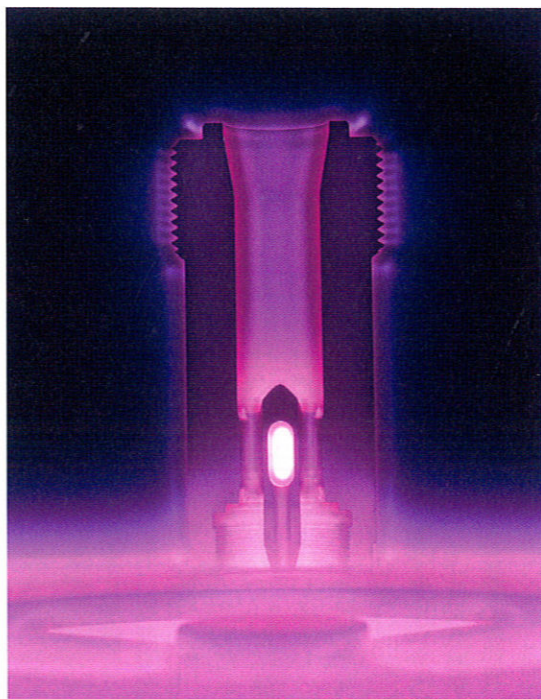
で自社で一貫して行います。加工に向く原材料の選定から、熱処理前に行う加工による精度向上、真空炉・イオン窒化装置を用いた熱処理対応、これら一つ一つの工程の積み重ねによって、最終的に目指す精度を達成しているのです。

船舶用ディーゼルエンジンのメンテナンスが起源

—最初からノズルの生産を専門に行ってきたのですか？

望月 当社の設立は昭和24年ですが、その頃の清水市は船舶関連産業で栄えていました。当社の事業は船舶のディーゼルエンジンに使用されるノズルやバルブ、関連部品のメンテナンズやオーバーホールから始まったのです。それでノズルは消耗品ですから需要も高く、「他社製品を使い続けるよりは」と自社でノズルを開発するに至りました。

昭和30年代後半になると、日本にも射出成形機が導入される



熱処理

ように。ディーゼルエンジンに比べて加工時の温度と圧力が桁違いとなる射出成形機にどう対応していくか、そのノウハウを蓄積してきました。熱処理への対応を進めていったのもこの頃からになります。

昭和60年代以降は情報系の精密機械用部品の需要がみるみる増えてきました。テレビやプロジェクター、CDやそのピックアップレンズ等が主たるところでしたね。射出の仕組みが油圧から全電動化し、温度管理面でも精密さを増した時期でした。

その後平成に入ってから、多品種少量化への対応が求められる時代となりました。携帯電話、DVDやブルーレイディスク、スマートフォン、タブレット端末、航空機や人工関節、自動車の部品等も。年々高まるニーズに精度を高めてお応えしています。

生産工場の設備投資は需要期に一步先んじて行われますから、生産設備の部品注文はさらに一步先んじた段階で入ってくる。私たちはその時代ごとに世界規模で大きな需要のある製品の、生産現場の最前線を、当社の生み出す部品によって支えている。そんな自負を抱えています。

成となるよう体制を整えてきました。近視眼的に経験者の中途採用に走らず、有望な若い世代をじっくりと育てる道を選んできたのです。日々の仕事を通じて、また外部のメーカー研修などの機会も活用しながら、若い人にチャンスを与えて伸ばす努力を最大限に続けていく。これが未来志向の経営だと私は考えています。

未来から「ありがとう」を目指す

—社会貢献活動にも積極的に取り組んでおられると伺いました。

望月 そうですね、当社敷地内に地域のゴミステーションを設置したことや、科学技術高校の企業研究訪問を受け入れたこと、「公益社団法人難病の子供とその家族へ夢を」の支援活動や、地域イベントへの協賛などに取り組

んでいます。

未来から「ありがとう」と言われる活動が私のポリシー。地球は祖先からの贈り物ではなく、子孫からの預かりものです。地球環境や社会環境の悪化という負の遺産を未来へ残さず、「ありがとう」と未来の人々から感謝されるため、同じ時代を生きる皆さまとともに持続可能な発展を目指し、次代への継承を実践すべく全力を注いでいきます。



望月飛辰社長



社屋

企業概要

- 所在地/静岡市清水区八千代町9-8
- 設立/1949年4月
- 資本金/2,000万円
- 代表者/望月飛辰
- 事業内容/プラスチック成形機射出部品製造、精密機械部品・ユニット製造、精密金型製造、航空機部品製造、医療器器具部品製造、精密油圧機器部品・ユニット製造
- URL <http://www.nihon-new-nozzle.co.jp>